



～ 東日本大震災から6年、熊本地震から1年。市備蓄体制を更に強化 ～ 「こどもの災害用備蓄品」を市拠点施設に事前・分散配備する新たな 取組みと、市備蓄食に「新たな食物アレルギー対応品」を導入

まもなく東日本大震災から6年、そして熊本地震からこの4月で1年、「防災・減災日本一」を目指す龍ヶ崎市では、「こどもの災害用備蓄品の事前・分散配備」「新たな食物アレルギー対応品の導入」といった取組みを進めます。

【取組みの内容】

1. アレルギー対応粉ミルクなど「こどもの災害用備蓄品」を内容拡充のうえ、事前・分散配備

市役所本庁舎での『一括管理』から、災害時における市拠点施設となるコミュニティセンター（市内13箇所）に、別紙「こどもの備蓄品事前配備について」に記載の備蓄内容を拡充のうえ、本年度内に事前に分散配備することにより、災害時の「こどもの安全と安心」を速やかに確保する体制を新たに整備します。

2. 市備蓄食に「食物アレルギー対応の新製品」の導入

調理用の水が不要で、すぐそのまま食べられる「レトルトおかゆ」を3種類約4,000食や、避難所生活で不足する野菜の摂取による健康管理を目的に 野菜ジュース約2,500缶を新たに導入します。

これら取組みは、危機管理室において、**男性職員の育児休業取得中および日々の育児における“経験や気づき”**などの意見を聞き、実行しました。

【男性職員の主な気づき】

- ・災害直後、速やかな物資輸送は困難。
- ・特に、子ども向けの最低限必要な物資は、市拠点施設に事前配備が望ましい。
- ・ミルク用の備蓄水は他の備蓄水と別に保管することで、容易に確保が可能
- ・使用後のおむつは、防臭効果のある個袋に入れて廃棄が望ましい など

東日本大震災の教訓および熊本地震の被災地派遣職員の経験、そして今回の男性職員の育児を通じて得た気づきなどを反映し、当市は更なる「市民の安全と安心」の確保に努めます。

場 所	配備場所： 市内各コミュニティセンター13箇所
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどもの備蓄品事前配備について」 ・龍ヶ崎市備蓄計画基準総量（平成31年度:2019年度 目標）
担当課	龍ヶ崎市 危機管理室 危機管理政策グループ 担当者： 鎌田（かまた）、小山（こやま） 連絡先： 電話（代表）0297-64-1111 内線352 （直通）0297-60-1514